

ボアオ医療センター 万泉城

ボアオ抗がんシリコンバレー

海南島博鳌（ボアオ）の医療特区に
日本モデルを積極的に導入した世界最大級・最先端クラスの
がん医療関連施設群創建
創薬プラットフォーム創設へのチャレンジ

事業主体

海南博鳌樂城開發控股有限公司

企画・基本計画・アドバイザー



株式会社千博医療
CHAMBOW MEDICAL Co.,Ltd.

所在地：東京都千代田区有楽町1丁目9番1号 日比谷サンケイビル10階

TEL：03-3218-1161 FAX：03-3218-1283

事業内容：国際医療プロジェクト企画・運営事業／医療機関経営サポート事業／
メディカルツーリズム運営事業



本プロジェクトの概要：海南島

海南島博鳌（ボアオ）万泉河流域に位置する医療特区・

「海南博鳌楽城国際医療旅遊先行区」に、日本モデルを積極的に導入した世界最大級・最先端レベルを目指すがん医療関連施設群を創建するプロジェクトです。



ハワイと同緯度に位置する中国最南端の島、海南島は、その温暖な気候と楽園的な風土から長く中国のリゾート地として親しまれてきました。1988年に経済特区に、また、2010年国際観光島にそれぞれ指定され、2018年には習近平国家主席の講演の中で、海南島全域における自由貿易試験区の建設が支持されました。

海南島はアジアの中心に位置し、今後、中国のみならずアジアにおける新たな産業集積・経済発展の拠点として成長していくことが確実視されています。

海南島東海岸に注ぎ込む万泉河口に存在する博鳌（ボアオ）は、以前は海南島民ですら知らない寒村でしたが、「アジア版ダボス会議」とも呼ばれるボアオ・アジア・フォーラムの誘致・開催、年次総会恒久的開催場所への指定などを契機に激変し、国際的なブランドのホテル、国際会議場や温泉、ゴルフ場等を擁する中国有数の複合リゾート地として発展を遂げました。

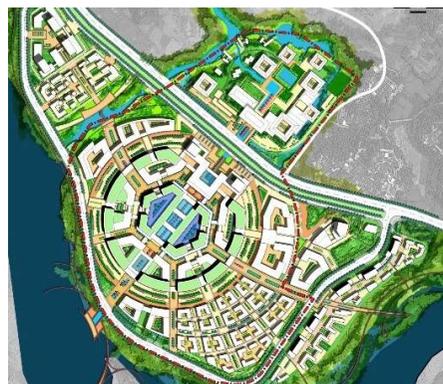
「海南博鳌樂城國際醫療旅遊先行區」について

2013年2月末日、中国国務院が「海南博鳌樂城國際醫療旅遊先行區」を認可。当時としては先進的な9ヶ条の条項が示され、それに基づき、海南省政府が率先し、このエリアの整備に当たっています。

海南島は、厳しい環境保護の目標を有しており、環境汚染等の健康を損ねるリスクファクターが少なく、また、健康的なブランドイメージを有しています。この先行区に世界トップレベルのメディカルツーリズムのデスティネーション、最先端医療産業の集積地、健康分野の国際交流プラットフォームを形成することを目標としています。

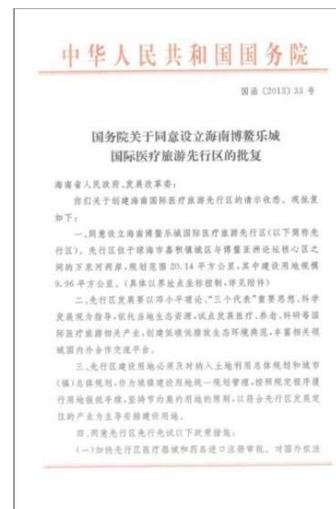


海南博鳌樂城國際
醫療觀光先行區



施設群イメージ図
(第一期計画)

2013年2月28日、中華人民共和国国務院から海南省人民政府、
發展改革委員会宛に発行された書面（一部抜粋）





本プロジェクトの背景



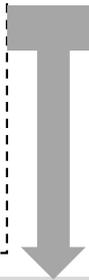
経済成熟化・高齢化に伴う がん罹患患者及び死亡者数の増加

経済の成熟化とともに高齢化が進行する現代中国において、がんは国民病となりつつある。罹患患者数・死亡者数共に世界の平均を上回っており、早期発見・適切な治療/療養プロセスなど、早急ながん医療対策が望まれている。



高齢化先進国としての 高いがん医療水準

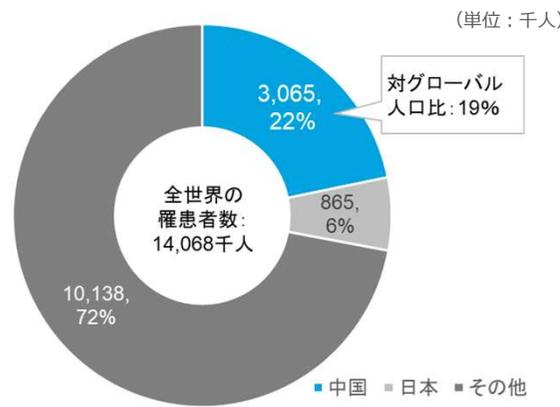
日本は高齢化先進国として数十年に渡りがん対策を国家レベルで講じてきており、がん医療の質は高い水準に達している。この日本モデルがん医療をボアオで導入し、今後の中日協力関係の具体的成果として結実させ、さらには、がん医療におけるアジアニシアチブ獲得のリーダーとなることが求められている。



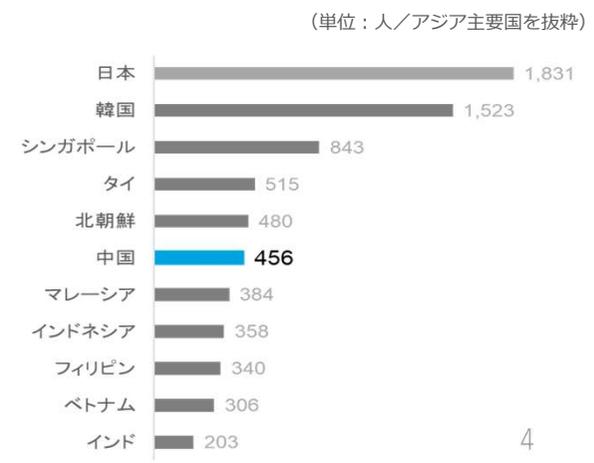
中国の医療特区・海南島博鰲（ボアオ）に日本モデルがん医療を導入



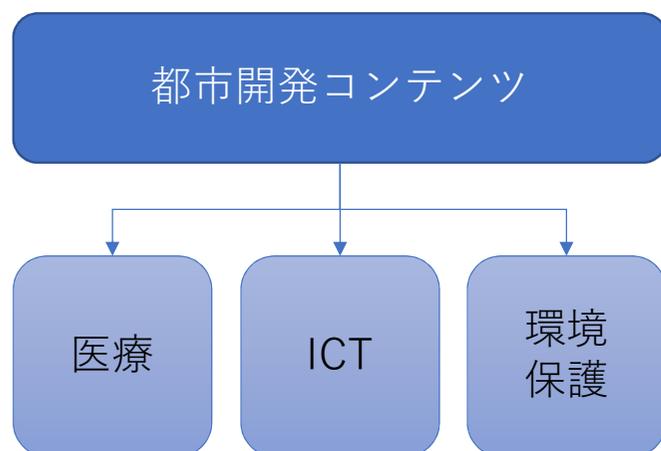
全世界の罹患患者数に占める
中国のがん新規罹患患者数



国別*宣告後5年以内生存者数割合(10万人中)



※International Agency of Research on Cancer、国立がん研究センター及びCancerAtlasに基づく



本プロジェクトの都市開発コンテンツとして、以下三点を提示します。

①医療

がん医療の街づくりにおいて、最も重要なコンテンツです。がん医療分野において、常にこの都市が世界のトップレベルを走り続けられる仕組み作りを目指し、「治療ゾーン」「療養ゾーン」「教育・研究ゾーン」の三つのゾーンに分けられます。それぞれのテーマの中で施設が創建され、それぞれが密接に関連し、成長を促す、複合がん医療都市を形成します。

②ICT

ICTは現代医療において、不可欠な装備です。その傾向は加速しています。ネット診療、AI、ビッグデータ活用など、最新のICT技術を最大限に利活用します。

③環境保護

現代の暮らしにおいて、環境との共生は極めて当然の視点です。医療機関は、その性質上、環境共生が難しい点がある施設でもありますが、そこにチャレンジし、生態系維持、再生可能エネルギー・水資源の活用、循環型社会の構築など、次世代の医療都市の先駆けとなる施設作りを心がけていきます。

本プロジェクトを構成する「三つのゾーン」

◆治療ゾーン

日本モデルを取り入れるというこの開発のテーマの象徴的な施設として「治療センター」を建設します。中央診療部門を中心とし、その周囲に専門的治療部門が有機的に配置されたクラスター構造を取り入れ、最先端の医療を導入します。さらに、日本が長年培ってきた日本モデル医療、例えば、「患者中心のチーム医療」を実践します。

◆療養ゾーン

「ナーシングホーム」という新概念を構想、入院日数短期化の傾向の中で、敢えて、ボアオという環境の下、病院として機能は備えているものの、自宅にいるような寛いだ環境で、療養生活を送ってもらいます。在宅・社会復帰をサポート。西洋医学のみならず、東洋医学を含む補完代替医療を組み合わせた、新たな療養・リハビリテーションモデルを提供します。

◆教育・研究ゾーン

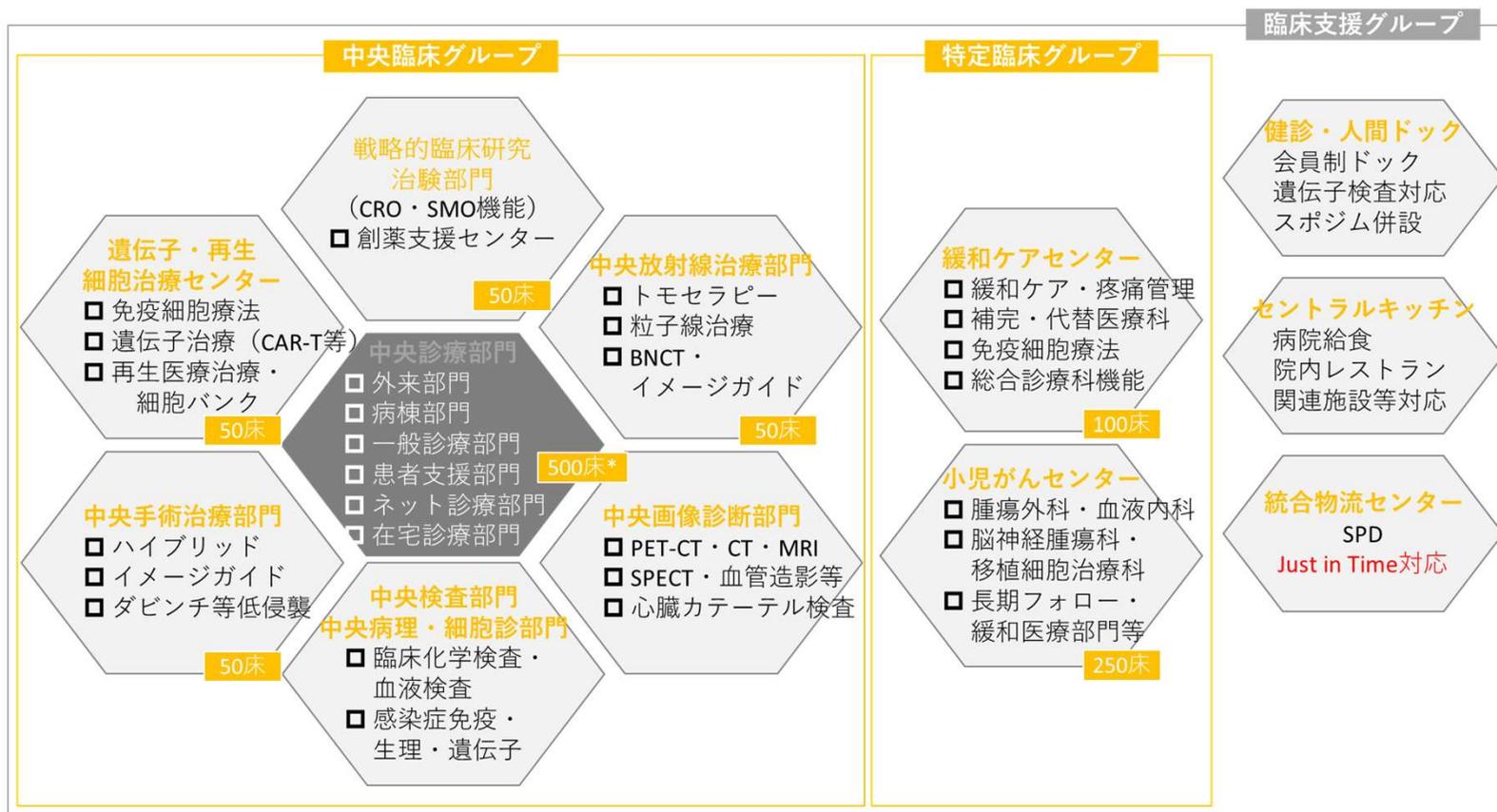
教育・研究を推進するゾーンとして、がんに関わる一大研究開発拠点を設置します。研究施設や非臨床動物実験施設、ベンチャー企業が入居するインキュベーションオフィス、大学・大学院等の施設を集積。また、日本モデルの教育研修システムを持つ、看護師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士などのスタッフ養成専門学校を建設、域内の人材供給源としての機能を持たせます。



治療センターの概要



ボアオの環境にマッチした低層構造のイメージ。各建物はクラスター構造で有機的に結合されています。中央診療部門を中核にして診療技術部門が独立し、相互が連携する機能導線・患者導線・物流導線を配慮した配置。更には戦略臨床研究・治験部門も配され、新たな治療技術創出が可能な構造です。



*：第一次は合計：1,050床でスタートするが、中央診療部分他部門機能の充実化を踏まえて段階的増床し最終は3,000床規模とする想定



治療センター内施設例：戦略的臨床研究治験部門（併設：創薬支援センター）

臨床現場と研究・教育・企業連携の中核を担う“戦略的臨床研究治験部門”

今回、治療センターには、アカデミア・企業と臨床現場（病院）を強力に繋ぐ“戦略的臨床研究治験部門”を併設します。

この組織は、開発シーズを持つ企業や研究者と臨床現場の間をつなぎ、有望な新技術をいち早く臨床研究・治験へ橋渡しする産業集積の起点機能とコーディネート機能を有するものとします。

中国は、近時、臨床研究や研究成果を世界に積極的に発信しています。更に、そのスピードと強さを増して、日本・欧米などに伍して、新薬開発、先端医療機器開発を中国に行っていくための施設、体制整備を行います。

ポアオ医療センターでは、研究のための研究、治療のためだけの医療、学生教育のためだけの教育という単純な概念を越えて、患者・市場・研究者のニーズに応える医療・研究・教育の設備と仕組み・法体制の整備を目指し、また、産業化を一層推進していくことが重要だと考えています。

戦略的臨床研究治験部門は、それら社会からの要請にスピード感を持って応える組織としたいと考えています。

臨床の医師、研究者、そして企業の面々が一同に参集して、医薬品開発・医療機器開発・再生医療等製品開発、医療AI開発等に邁進する組織となると共に、企業等と繋ぐ結節点としての役割を担うものとします。

まずは、医療先行区の特権を活かし、日本・欧米で承認され中国未承認薬の早期使用の実施と、そのリアルワールドデータを活用した中国国内の早期承認制度活性化に資するものとします。

特に適用外疾患における臨床研究や治験を通じて、世界に先駆けて承認し、その承認品目が米国FDA、日本PMDA、欧州EMA等とのハーモナイゼーション（承認の相互連携）において、有効的な地位確保に貢献をしたいと考えています。

知的財産保護の仕組み作りも重要な課題であり、中央政府、地方政府とその仕組み作りの枠組み作りを共有したいと考えています。

